

第四回 桜町再開発事業における新たな集客施設整備検討委員会 議事概要

【日時】 平成25年11月6日(水) 10:00~12:00

【場所】 熊本市議会 議会棟2階 予算決算委員会室

【出席委員】 全20名のうち13名出席 ※以下、敬称略

(委員長)	熊本大学	理事・副学長	両角光男
	熊本学園大学商学部商学科	教授	宇野史郎
	株式会社アドコム(熊本県広告業協会会員)	常務取締役	後藤亮一
	一般財団法人熊本国際観光コンベンション協会	専務理事	齊藤寛
	在熊マスコミ社長会(熊本放送株式会社 取締役兼総務局長)		杉光定則
	熊本大学工学部建築学科	准教授	田中智之
	熊本大学	理事・副学長	原田信志
	一般社団法人日本ディスプレイ業団体連合会	副会長	淵田俊郎
	熊本商工会議所	専務理事	松山正明
	熊本市議会	市議	藤岡照代
	熊本市議会	市議	津田征士郎
	熊本市議会	市議	江藤正行
	熊本市役所	副市長	牧慎太郎

※欠席委員

熊本県立大学環境共生部居住環境学科	准教授	西英子
熊本市中心商店街等連合協議会	会長	武本純一
熊本経済同友会	事務局長	藤好清隆
桜町・花畑周辺地区まちづくりマネジメント委員会会長 (熊本市都市政策研究所所長)		蓑茂壽太郎
熊本城下のまちづくり協議会 桜町地区会議	会長	吉丸良治
熊本市議会	市議	下川寛
熊本市議会	市議	田辺正信

【議事概要】

1. 開会

2. 委員会審議事項について

(委員長) 今回、前回検討したC'案、D'案の2つについて比較検討するというこ
とで、準備を事務局にさせていただいた。お手元の議事次第に書いてあるが、
施設構成の問題と、取得費、経済波及効果、費用対効果についても審議を
頂くということで準備をさせていただいている。是非活発な審議をしていた
だきたい。

もう一点、審議に入る前に相談がある。今回の委員会については、C'案
D'案の改善案、あるいは事業費、想定催事件数、経済波及効果について
絞り込んでいただくということだが、以前の予定では、第五回の委員会
で基本計画の素案としてこれらをまとめる予定になっている。その素案の中
で、再開発への参画方式、運営方式について触れることとなっており、今
回審議を予定していたが、この件については、今後、市議会に諮りながら
方針を決定していくと伺っている。

そういうことから、第五回で取りまとめる予定の基本計画で示す参画方法、
管理運営方式については、あくまで一般的な内容のみを記載するというこ
とで次回の委員会でお示しし、基本計画の素案に盛り込ませて頂きたいと
思う。市議会での審議事項とこの委員会での審議とは多少性格が違ってき
て、ここでは一般論を扱うのだということを進めさせていただきたい。よ
ろしいだろうか。

(他委員) (はい)

(委員長) それでは、そのように取り扱わせていただく。それでは、次第にしたがっ
て進めていきたいが、①の施設構成について、②の施設整備費、経済波及
効果、費用対効果について、まとめて事務局の方から説明をお願いします。

3. ①施設構成、②施設整備費、経済波及効果、費用対効果等について

(事務局) 資料説明

(委員長) 施設の構成案の話と、いわゆる経済面の話と2つ報告を頂いたが、まず、
最初に施設面のC'案とD'案について、これをもう一度おさらいをして、
これにご意見を頂く、あるいは経済面の方もご意見を頂く形で進めたい。
まずは1ページ目を見ていただき、メインホールの部分はC'案もD'案
も全く一緒であるという説明だった。どこが変わってくるかという、ホ
ールから下の部分の床の構成が若干変わってきている。それによって総面

積が変わった。C' 案の方が少しコンパクトで、33,820 m²、D' 案が 37,170 m²という違いが出たということ。この差が建設費の差であり、あるいは、運営コストの差として説明があった。

大きな違いは階数の違いという説明だったが、D' 案の方は多目的ホール、国際会議ホールの天井高が8mで、イベント展示ホールが9mになっている。これに対してC' 案の方は、イベント展示ホールが7m、国際会議兼多目的ホールが6mで少し低くなっている。

もう一つ、会議室のところを見ていただいて、C' 案の方は、会議室群が1フロア独立した形でとれた。結果的に13室、総面積にして2,030 m²というのが確保出来た。これは控室とか倉庫とかを除いた純粋に使える部分ということでいいのか。D' 案の方は、12室ということで少し減る。面積的にも1,810 m²ということになった。その代わり、C' 案の方は国際会議ホールと多目的ホールが兼用になる。多目的ホールを仕切って2分割にして使うことが出来るとともに、一方が国際会議ホールとして運用出来るようにしておくという構想である。それに対し、D' 案のほうは、国際会議ホールと多目的ホールが別個に確保出来て、この辺が、面積が大きくなる条件だったかと思う。

それから、イベントホールについては、基本的に一緒に、天井高の違いということ。あと、下に2階エントランスとの関係というのが書かれているが、D' 案の場合は、独立したエントランスレベルが作られているということになる。このところで面積の違いを生む条件になっているかと思う。C' 案では会議室が独立していた。それからD' 案では、いわゆるコンコースから入ってくる2階レベルのエントランスというのが独立した床になっている。

次のページをご覧ください、D' 案の一番下に2階が描かれているが、いわゆるコンコースから入って来ると、ここが全体のエントランスになっている。なおかつ、下の階のイベント展示ホールを見下ろせるような空間が作られている。これに対して、C' 案をご覧ください、2階部分にエントランスがあるということはあるが、そこから連続する形で国際会議ホール兼多目的ホールのホワイエにつながっていく。こういう構成になっている。ただ、先ほど説明があったが、2階のエントランスホールとホワイエの間には、段差が生じている。2.5mくらいという説明があった。いわゆる天井としてはつながっていて、床だけは段差が生じてしまう。エスカレーターあるいは階段が付くという格好になるという説明だった。その段差の説明が次の3ページに絵があった。3ページの下に県立美術館の写真が紹介されている

が、さっきの説明は少し違って、県立美術館は左から入ってきて、正面の裏側、一段上がったところから入ってくる。廻り込んで来ると正面に見える一段上がったところに入ってくる。中二階に入口から入ってくる。ここから階段を下りて下の展示ホールに行くか、上の展示ホールに行くかという構成になっている。上の図と見比べてもらうと、今回はこれに似ている。今回の場合は、下から入ってきて、上に上がるという格好になる。ちょうど手前から入って、上に入って行く形になる。ただ、この空間としては一つにつながっているの、この入口部分と一段上がったところ、今回の設計で言うと、2 ページのC' 案で2 階エントランスと描かれているところと国際会議ホール兼多目的ホールのホワイエというのが、この写真でいうようにつながっている。でも床に段差が付いている。ただ、空間としては、つながっているの、このエントランスホールとホワイエを一体的に何か使った運用ということも可能である。そういう説明だった。

2 ページ目の方を見ていただくと、C' 案の方でいくと、エントランスがあって、半階上がって多目的ホールと国際会議ホールがある。それから一層上に会議室群がある。ここは独立したホワイエを持っているということで、両者は全く独立した運用が出来るということだった。D' 案の方は、エントランスホールから入ってきて、エスカレーターで上がった3 階に多目的ホールと国際会議ホールと大会議室が取られている。その上の4 階では、多目的ホールと国際会議ホールの天井高を高くしているの、4 階では吹抜けというか、使えない空間になっていて、その右側に会議室がある。そうした結果、吹抜けの分だけ会議室として使える分が少し減ってしまった。以上が大きな施設の構成についてC' 案とD' 案の説明だった。後は通訳ブースの話だとか、D' 案のエントランスから入ってここからメインホールに行くのに直接行ける方がいいだろうと前回提案があって、右下にエスカレーターが描かれているが、ここから登って3 階、4 階を突き抜けてメインホールに行くというエスカレーターがここに付きますということだった。ただ、エスカレーターのすぐ右側にエレベーターがある。バスターミナルから上がってくるエスカレーターだが、3 階にエレベーターで出て来ると、エスカレーターが横切った形になる。アプローチとしては窮屈な印象がある。その辺の文字での説明が3 ページにあった。

以上、C' 案D' 案の大きな点を少しレビューさせていただいた。あと、4 ページ5 ページをご覧頂くと、経済面の分析がある。床コストの520 億、540 億という説明があった。この床コストについて事前に説明をいただいたが、ここで作るのはいわゆるMICE施設ということになるが、その建

設の費用を負担するというのは当然だが、この再開発事業全体の中でコースであるとか、各施設が共同利用する床部分もある。そういったものも一定の割合で負担していくということで、その計算も踏まえて出てくるものが床コストというものだそうだ。計算の細かいところは先ほど説明があったが、結果として520億、540億プラスアルファという数字が出てきた。それで、床処分価格といったような計算が最後の方に書かれていたが、C'案が289億、D'案が305億、15億の差として出てきた。先ほどの520億というのは、トータルのコスト。先ほどの公共部分も含めた価格が289億、305億ということだ。

後は、5ページの方いわゆる経済波及効果の分析が出ているが、どれだけのイベントが開催されて、どれだけの人が期待出来るか、これについては、施設に若干差があったが、基本的には同一のものとして想定されている。後はコスト面で面積等が違うため、ランニングコストの違いとイニシャルコストの違いが計算に入れられた。費用対効果として、C'案で1.62、D'案で1.47と多少差が出てきた。これをどう評価するかということだが、費用対効果の面ではC'案の方がいいという結果の話だった。

少し私の方でレビューをさせていただいたが、この構成案、あるいは経費面を含めてC'案、D'案どちらで行くか結論を頂きたいと考えている。ご質問あるいはご意見を頂きたい。

(委 員) 全部一緒によろしいか。施設面と経費面と分けた方がよいか。

(委 員 長) それでは分けて、まずは施設面についてご意見いただきたい。

(委 員) 施設面について2点ほど質問したい。1点目だが、展示ホールの天井の高さについて、経済界の中でも興南会館が無くなったので、そういった施設を求める声大きいのが、参考までに興南会館の天井高がどれだけだったのか。7mと9mで、2mほど差があるが、展示場の機能として、7mで十分対応出来るのか。もう1点だが、前回の議論の中で、国際会議場の造りが違うのだが、いわゆる同時通訳ブースというか、これは両方とも作るという形になっているが、ただ、違うのは、国際会議ホールが独立したものか兼用かの違いだと思うが、この違いというか、いわゆる仕切られて独立した部屋なのか、仕切って使う部屋なのかということ。つまり、D'案の国際会議ホールは、最初から会議室の造りとして、国際会議が出来るような造りになっているのか。恐らく兼用であれば普通はまっさらなので、何かある時に持ってくるということになると思う。その2点についてお願いします。

(事 務 局) まず、興南会館の天井高については、以前あそこはボーリング場だったので、天井高はそれほどなく、4mだった。また、お手元の資料(参考資料)

をご覧ください、カラフルな写真が付いているもの。説明の次にお渡しした資料になる。その下にイベント、展示場の他の施設の天井高を示している。サンシャインシティが7mから9m。一番下の部分が、グランドホールが6m、あと5mとかいうものもある。展示ホールの天井高としては6mでも十分と考えている。それと、2点目のD'案の国際会議ホールが固定席なのか、可動席なのかというようなことだろうと思う。固定で円卓みたいな埋め込んである席なのかということだと思うが、国際会議も円卓で行うもの、あるいはスクール方式で行うもの、いろいろなパターンがあるので、あくまでテーブル、机は動かせるものを考えているところ。

(委員長) 展示ホールの方は、7mか。C'案は。少し建物の構成についてご議論いただきたい。

(委員) 確認で尋ねるが、国際会議ホールの件だが、C'案では、同時通訳ブースがあって、国際会議ホールと多目的ホールを一緒に使える。独立でも使えるけど、一緒に使えるという分で、ここが両方使用した場合、各部屋が何名ずつくらいか、一緒にした場合が何名になるのか。それと、D'案になった場合は、国際会議ホールが単独になっているので、多目的ホールが同時には使えないようになっていのだらうと思うが、この場合、同時通訳で使える国際会議ホールは、単独の部屋だけになるのか。

(事務局) C'案については、ここは1,040㎡あるので、人数としてはスクール形式であれば1,100名程度は入ると考えている。ただ、その国際会議でコの字型の円卓にするとかで、収容人数も変わってくる。それと、規模的に400名程度の国際会議であれば、これを間仕切って半分のスペースでの国際会議も対応が可能になっている。D'案の国際会議ホールで国際会議を行った場合は400名程度のスクール形式、そこも円卓になってきた場合は収容人数が変わってくる。それと併せて、こちらのフロアは多目的ホールと国際会議ホール、大会議室の3つの機能を有しており、それに併せてホワイエが一つしかないということなので、別々の催事が行われた場合は、どうしてもホワイエが混雑する。そういうことが懸念されている。

(委員) D'案で、例えて言うと、先日行われたようなアジア太平洋都市サミットが行われたが、ああいう形式でやる場合は、C'案は、両方だから1,100名くらい入れるが、D'案は同時通訳を兼ねてするという場合は400名しか出来ないということか。

(事務局) 今のC'案については、アジア太平洋都市サミットについては、大きい真ん中にコの字型のテーブルを作り、収容は200名弱で仮設ブースを作ったところ。あの会場は約1,000㎡程度だったので、C'案の国際会議ホール

兼多目的ホールで十分対応出来ると考えている。D'案になってくると、前回のアジア太平洋都市サミットを開催するには、国際会議ホールではどうしても対応が難しく、多目的ホールでの利用になってくると思う。

(委 員) それでは、アジア太平洋都市サミットの場合は、傍聴者とか、いろんな方が出席出来たのだが、D'案がこの国際会議ホールであれば400名くらいになった場合には、一般の方とか傍聴したい方とかたくさんの方が参加をしたいとかいう場合には、多目的ホールの中で大型スクリーンとかで聞くとかいう形になるのか。

(事 務 局) はい。一応、多目的ホールを併用させていただければ、前日も日航ホテルのバンケットを使わせていただいたので、同じような形の仮設のブースを置いて多目的ホールで開催する形になる。ただ、委員が言われたように、国際会議を国際会議ホールで行って、それを同時に市民が傍聴するという形で使うことも、利用として十分ある。

(委 員) 国際会議もいろんな形があるので、いろんな形に対応しやすい形式というのがいいのではないかと。会議自体に参加する方と、その部屋と一緒に参加させていただくなど、そういう対応が出来る体制も大事ではないか。

(委 員 長) 他にいかがか。

(委 員) 控室のことで聞きたいが、C'案の2階部分で、控室はどこにあるのか。

(委 員 長) 倉庫の横に控室が並んでいる。

(委 員 長) それと、上側にもある。

(委 員) D'案に関しては、3階4階の南側の部分か。判った。

(委 員) 今の倉庫と控室関係の質問なのだが、最初の説明では、C'案の2階の倉庫と控室が不足するから会議室をまとめて大きめの倉庫と控室を作ったという説明だった。そういう面では、D'案は倉庫と控室が不足しているという理解でよいのか。

(事 務 局) D'案の3階のフロアについては、倉庫が不足しているということはある。

(委 員) では、倉庫を増やそうとすると、大会議室が少し小さくなるということか。もう一つ、両案についてだが、前回の委員会で質問が出たが、1階のバスターミナルとの動線の関係だが、エレベーターがあることは判るが、1階からエスカレーターで、例えばエントランスに来るとか、動線について判らないので、説明をいただきたい。

(事 務 局) 参考図面の中のC'案と右下に書いてある3ページが1階の平面図になる。そちらの方に真ん中の方に、バスターミナルの中に一箇所ポンとエレベーターがあるが、それが先ほどの真ん中に走っているエレベーター。それと、あと1箇所、エントランスと書いてあるその南の方にエレベーターを2基

配置している。

- (委 員) エスカレーターは無いということか。
- (事 務 局) ホワイエの右の方にあるものが、エスカレーターになる。
- (委 員) ということは、バスターミナルから来る人は、C' 案の 3 ページのエントランスのエスカレーターから上がってくるということか。
- (事 務 局) はい。
- (委 員) バスターミナルの平面が無いので判らないが、1階のエントランスのエスカレーターにバスターミナルからアクセスするルートはどのような感じになるのか。結構利用者があると思うが。
- (事 務 局) バスターミナルを描いていないので、恐らくバスターミナルの真ん中にあるのが、中央の島になる。
- (都市建設局) 今の参考図の 4 ページで、再開発の商業とかMICEをメインでつなぐコンコースが 2 階に出来る。当然ながらバスターミナルからエスカレーターで誘導して、そこで分かれていただいてMICEに入っていたとか、シンボルプロムナードに行っていたとか、そういう形態をとっている。
- (委 員) この図面には描いていないが、MICEエントランスと描いてあるホールに接続するエスカレーターが下から上がってくるということか。
- (委 員 長) コンコースに上がってきて、コンコースからエントランスに入ってくる。
- (都市建設局) ターミナルからコンコースに上がるので、そこから別れて入っていただくという形になる。
- (委 員 長) ここには描かれていないが、バスターミナルからはコンコースに上がる。コンコースから 2 階エントランスに入る。それでよいのか。
- (事 務 局) もう一度おさらいで説明させていただく。バスターミナルを利用された方は、エスカレーターかエレベーターでコンコースに上がっていただく。2階の部分の 4 ページのコンコースから商業、MICE施設に入っていただくという形になる。それから 2 階のエントランスから、上の階、下の階の方にMICE施設の中で移動していただくという形になる。それともう一つ、アイランド、中央の島からエレベーターでMICE施設に直接上がっていくという 2 種類になる。
- (委 員) エスカレーターの場所というのは、だいたいどの辺か。まだ検討中だから判らないか。コンコースも長いので、だいたいいい。
- (都市建設局) だいたいの位置でよければ、エレベーターがあるが、その北側、中央の島があるので、ここの北側のコンコースにつながるということ。
- (委 員 長) エントランスと描かれている所と、コンコースがあるけれども、その付け根部分にくるとということか。

- (委 員) 今回の内容に付随することだが、メインホールでコンサートを行う場合、固定として 2,300 人のキャパだが、コンサートを常時やっている中で、開場時間が遅れる可能性がすごく高い。通常 6 時開演、6 時半開演のなかで、6 時開場が押して、それが 15 分、20 分ずれて、予想人数 2,000 人以上の人が、通常メインホールのところにホワイエがあるが、ホワイエの場合は、チケットを持った人のみが入れる部分で、実際ホワイエでは、いろんなアーティストグッズの物販関係をやっているの、そのホワイエまでも入れない、ロビー開場も出来ないことも多々あるので、今の 2 千数百人のお客さんが、開場時間が押して、溜まる場所として、2 階エントランスしかないのか。
- (事 務 局) コンサートでそういった場合のチケットのもぎりの場所もいろいろあるだろうが、どうしても開場時間が遅れたという場合を想定した場合は、まずはコンコースから入ってくるエントランスがある。それからメインホール直通のエスカレーターがあるので、まずはそちらで溜まりとしての場所を設けている。そこが 600 m²ほどあるので、そこが一時的な待機。それから、上の部分のエントランスがあるので、そこでの振り分けをどうするかという考えになる。
- (委 員 長) お手元の参考図面の 8 ページをご覧ください。ここに 4 階平面図があるが、これは C' 案も D' 案も共通だと思うが、先ほどの 2 階のエントランスから上がってくるエスカレーターが、この図で言うと右上の方にダウンと描いてあるところに上がってくる。上がったところがエントランスロビーになっているので、この 1,460 m²も溜りになる。ここに扉があるので、ここがもぎり部分になって、入っていく。だから 2 箇所に一応クッションがある。
- (委 員 長) 建築の専門家に尋ねるが、C' 案で、私から説明させていただいたが、2 階のエントランスと国際会議ホール兼多目的ホールのホワイエとの間に 2.5m の段差がある。この空間について、少しご意見、コメントを頂きたい。3 ページの絵も見ながら。
- (委 員) 県立美術館のロビーという例は判り易かった。ここはガラスで仕切る感じになるのか。これから考えると思うが、遮音とかを考えると、ここは仕切る感じになるかなと思うが、前回少し申し上げたが、2 ページ下にも書いてあるが、エントランスとホワイエが一体利用とか出来たり、あるいは思い切って国際会議ホール兼多目的ホールの東側の壁というか、ホワイエとの境界の壁を、例えば可動間仕切りで開閉できたりして、2 階エントランスまで含めて、大きく一体利用、何か大展示会をするとか、大物産市をするとか

かいろいろ出来ると思うが、何か段差を利用してなおかつ、一体利用が出来る、非常に特徴的なコンベンションスペースとかエキシビジョンスペースになるので、上手くやれば可能性があるという印象だ。

(委員長) C' 案というのは、国際会議ホールと多目的ホールが一体化したということだったが、その代わりにここに新たな用途というか、利用形態が生まれるのではないか。可動間仕切りというのがコスト的に出来るかどうかとか。あるいはホワイエとエントランスとの間にガラス壁がどの程度がっちり入るのか。あるいは何か一体的に利用出来るような工夫も可能なのかとか、その辺の細かい、建築的な処理はいろいろあると思うが、一つこれが特色にはなっている。

(委員) 今の委員の意見に賛成だが、メインホールも使っていない、施設利用が無い場合の集客について、それは考えておいた方がよい。そういう部分の施設面の、いわゆるフリースペースで、市民の憩いの場所だったり、何かインフォメーションをそこに置いたりとか、屋上庭園の利活用を含めて、何も無いときも集客が出来るという方法を頭に入れて、施設設計をして欲しい。

(委員) その通りだと思う。片やD' 案のコンコースとの接続のレベル、2 ページでいうと、右の下のD' 案の 2 階のレベルだが、これは一見イベントホールが見下ろせて良い感じなのようだが、ここは天井高が 3m しかない。この広さで 3m というと、結構窮屈というか、あまり心地よくない空間になってしまう。日常利用という観点からも使い勝手も良くないし、空間性としても良くないという感じで、あまり良くないという印象だ。

(委員長) 前回、委員からご指摘があった直通エスカレーターはどうだろうか。

(委員) これは駄目だ。ちなみにD' 案の 2 階で、エレベーターに行く動線とエスカレーターが斜めに上がっていくクリアランスはどれくらいか。

(事務局) 今のところ、2m くらい。

(委員) ぎりぎりということか。3 階、4 階を見ると、ホワイエとの動線をエスカレーターが分断してしまっている。ちょっと駄目かという感じがする。

(委員長) いろいろ検討していただいたが、エレベーターで上がってきた人が、2 階、3 階、4 階に出て行くときに、常に目の前か、ちょっと低いところにエスカレーターが通っていくということで、ちょっとこの案では厳しい点が残ったようだ。それで施設構成についてだが、D' 案の場合は、国際会議ホールと多目的ホールが一応、別々に確保出来る。なおかつ大会議室も取れるという話だったが、その分、小さな会議室いわゆる会議室部分が少し狭くなったとご説明させていただいた。まあ、大会議室と組み合わせればまた

ある程度一致してくると思うが。ただ、このD'案の場合、いわゆる国際会議、会議室、多目的ホールが一つのエントランス、ホワイエになってしまうので、一緒の運用、同時に運用するのは難しいというのが障害として残ったようだ。あるいはエスカレーターの問題もある。それに対し、C'案は国際会議ホールという独立したものは作れないが、同じような運用が出来る多目的ホールというのが出来る。実質、D'案だと国際会議ホールが430㎡、多目的ホールが1,040㎡ということで余裕があるが、C'案になると併用になる。あとは、国際会議の運用頻度との関係かと思うが、その部分が節約できた。面積を。それがトータルの面積に変わって出てきた。その代わりにというか、エントランスホールあるいはホワイエ、さらに言えば多目的ホールの一体利用というものも可能性として出てくる。少なくともホワイエとエントランスホールとの関係というのは、何か使い勝手として、提案出来ていけないのではないかということだった。後は、いわゆる会議というものが3階にまとまっているので、国際会議、あるいは多目的ホールと会議室が独立して運用出来る。この辺がC'案の大きな特徴である。それから、メインホールへのアクセス自体は、特に問題は生じないということ。このような点からすると、施設構成ということからいうと、C'案の方が、いろいろ可能性を秘めているのではないかという印象を持ったところだが、どうだろうか。そうやってしまっていいのだろうか。皆さんの考えを聞きたい。

(委 員) この図面の見方がなかなか難しく、素人の私には理解が難しいが、最初の議論であったメインホールの方に2階のエントランスから行くには、4階のメインホールまでエスカレーターで直接上がる。そうすると、4階の方に行って、メインホールに入るという形になっている。ただ、メインホールを学会等で使う場合は、メインホールでの全体会議が終わった後、分科会に分かれて、次は会議室に行く。そうすると、メインホールから出たときに、次の下の3階の会議室へのルートはどうなっているのか。直接行けないと、1回2階に降りて、また上に上がるということになるのではないかという心配がある。

(事 務 局) 今の委員の質問にお答えするが、直通エスカレーターの設置は検討して入れたところだが、委員が言われたように、全体集会が終わって、下の階の分科会会場に下りる動線というのは、エレベーターと階段の2種類。エスカレーターの分は、今のところ設置していない状況になっている。

(委 員) これは考え方だと思うが、2,300人が一気に直通で3階の会議室に降りると、それはそれでパニックになってしまうので、一度2階のエントランス

に下げていくという方が、現実的には捌けるかと思う。そういう考え方もあると思う。

(委員長) 補足させていただくと、スタッフ、あるいは主賓だとかはエレベーターで降りてもらって、多くの参加者は一度 2 階のエントランスに降りてもらって、そこから会議室の集まっているところの 3 階に上がる。そういう 1 クッション置くということか。受付をどこに作るのかという話も当然あると思う。確かに、メインホールから会議場へというアクセスは、エレベーターがメインになるので、大勢が一気に動くというのは難しくなる。

(委員) 直通エレベーターの話が出ているが、2 階のエントランスからメインホールへの直通にされている根拠は何なのか。直通でなければいけないのか。あるいは各階ごとにエスカレーターで上げるということが出来ないのか。理由があって直通という選択肢をされているのだろうか。

(委員長) エスカレーターを乗り継いでもよいではないかということか。

(事務局) 今のご質問について、コンサルタント側からお答えする。エレベーターについては、サービス水準、スピードを上げるために、メインホール的人数が非常に多いことから基本的には直通で設定させていただいている。同じく、エスカレーターも上層階に多量の 2 千人超の人を運ばなくては行けないので、直通という形にさせていただいている。途中の階で乗り継いでいくと乗り降りが生じるので、そこでいろんなトラブルが、そこから人の合流、分流を避けるという意味で、直通を計画させていただいている。

(委員) 今の考え方についてだが、極端に言うと、4 階のメインホールでのコンサートを中心に考えたと思う。やはりコンベンションホールを今回、メインとしてやっていこうというのであれば、やはり 4 階の全体会議が終わった後の分科会、あるいは分科会が終わった後の総会の会議場とのアクセスというは非常に重要な問題だと思う。構造上、各階にエスカレーターで降りられないというのであれば別だが、今のような理由だったら、各階で降りるような形をとってもいいのではないか。そうすると、どちらも一応はスピードの面ではそうかもしれないが、ある程度許容出来るのではないか。

(事務局) ご意見ももっともだと思うので、検討して次に繋げさせていただきたい。先ほど委員からも補足していただいたが、大量の人数を捌くときに、一気に部屋中心の 3 階に人を下ろしていくと、そこでの溜まりや受付の問題が出るので、一旦 2 階に溜める。つまり 2 階を施設の総合的な出入り口に一旦することで、人の捌きが出来るので、2 階をバウンドして 3 階にエスカレーターで動いていただくという計画にしているところ。

(委員) 今の説明は判るが、結果的に、大会・会議に出た人が、会議が終わって分

科会に分かれるときに、2,000人いた場合に、当然2,000人移動するわけだが、溜りの場所を2階に持ってこなくても、会場の中で溜めてもいい。分散で、第一会議室の人は先にどうぞと、という形に分けた形の方が。2階に下ろす場合も一度に下ろすので、結果的に変わらないのでは。であれば、会場の中で、主催者側の方とのやりとりの中で、そこを溜りにするという考え方、何らかの形でやらないと、これはどっちにしても解決しないのではないか。だから、溜りの場所を2階に持っていくのか、もしくは会場の中でやるのかを検討した方がよいのでは。

- (事務局) 2階と3階への溜りの分散の仕方について、十分検討させて頂きたい。
- (委員長) まだ設計的に調整出来る部分かと思う。今のコンセプトは、とにかく2階をメインに、転換点にしようとしている。メインホールといわゆる3階の会議室との関係ということについて、もう一工夫あってもよいだろうと指摘があったので、再度技術的に検討していただければ。
- (委員) コンサート、イベントのことばかりで申し訳ないが、C'案の国際会議ホール兼多目的ホールについて、産業文化会館が無い中で、いわゆるメインホールの小ホールとしての扱いで、この場所でいわゆるコンサート、イベント等は出来るのか。森都心プラザはキャパが498席くらいだが、あそこはロールバックで椅子が出てきて、可動席を足して498席だが、そういう使い方でこの場所は使えるのか。仮にC'案の場合で。
- (事務局) C'案の多目的ホールの部分だが、可動席のロールバックとかの設置は考えていない。あくまでフラットな空間で考えている。ただ、1階の方にイベントホールがあるので、それと趣の違った展示が出来るものを考えている。
- (委員) 音的な問題だが、例えば放送局がやる映画の試写会、産業文化会館でよくやっていたが、いわゆるそういうフレキシブルな対応が出来る形なのか。
- (事務局) 可能ではあるが、あくまでもこちらがスタッキングチェアを並べる形になる。それと、スクリーンの設置が必要になってくる。それに伴う音響関係の設備。備付ではないのでその辺りも調達していただく必要があるという形になると思う。
- (委員) 今の話だが、よく多目的は無目的と言われるが、全ての場所で映画とかコンサートを考えると、どれも同じような箱というかスペースになってしまうので、やはり上手く役割分担を決めて、例えば2階は音とかではなく、非常にフレキシブルなエキシビジョンホールとかいう性格にして、音とかは1階でやるとか、きちんと役割を決めてやらないとどれも使われなくなってしまいう可能性があるのでは、役割分担をきちんと決めてやるのが大事だ。
- (委員長) 今言われた意味は、使えないという意味ではなく、利用はそれぞれ個性を

出して、それぞれの最適を狙う。どれもいい条件では無理ですという理解でよいのか。

(委 員) はい。

(委 員 長) 今のところ、経費の話が出ていないが、プラン的にはさっきのエスカレーターの問題が一つ検討課題、これはC'案もD'案も共通だが、C'案の方が多少処理はし易いのかと思う。基本的に国際会議ホールと多目的ホールを併用していく形で運用していくC'案の方が、メリットが多く出てきた感じがしているが、これは平面計画の問題として、施設計画としてそのような理解でよろしいか。

(他 委 員) はい。

(委 員 長) それでは、これと併せた形で、いわゆる経費面のご説明があったが、4ページと5ページになる。それで、原価のイメージというところはなかなか条件があって、専門的なところがあったが、判り易いのは床処分価格というのが4ページ下段に入っているかと思うが、C'案の方は面積が減っているので、それが影響として出てきて、289億あるいは305億という、約16億の違いとして出てきた。それから5ページの方をご覧いただき、いわゆる収入面では、この試算ではC'案もD'案も同じ内容の開催を想定しているということで、大差は無いという前提でご説明があったかと思う。細かく見ていくと、国際会議と多目的が2つあるのと1つと若干違うと思う。逆に言うと、イベント関係はC'案の方がし易いのと微妙な差が出てくると思うが、基本的には同じ内容のものが開催されるだろう。収入も一緒だろうという前提で出ている。あと、コスト面で言うと、いわゆるC'案とD'案とではイニシャルコスト、床面積の違い、それとも連動しているであろうランニングコストの差があるということで、差として出てきた。これを今後の大規模改修工事の積立金も考えなければいけないということで、計算していくと、10年間のコストというのを計算してみると361億円、400億円。収益との関係で見ると、10年分の費用対効果は1.62、1.47、こういう差になりましたということだった。C'案の方が、規模が小さくなったというのが大きく影響しているかと思うが、コストが低く、コストパフォーマンスが良いという結論である。それについてご意見、ご質問をいただきたい。事務局から補足説明はあるか。よろしいか。

(委 員) 質問だが、便益のところ、10年分については、1年の分をどういった形でこの金額になっているのか。コストの場合もそうなのだが、簡単に掛ける10をするわけではないのか。

(事 務 局) この資料の5ページの右側の一番下に記載しているが、割引率を年4%、こ

それは国土交通省の費用便益マニュアルにもとづいて設定されている。それにもとづいて現在価値化換算しているところ。

(委 員) 床処分価格の中には、床コストの中に前提になっている α 分はこの中に入っていないということか。

(事 務 局) はい。

(委 員) 経済波及効果の算出のところだが、開催の件数の見方のところで聞きたい。この算出は、政令指定都市の施設利用の形態の割合と書いてあるが、政令市 20 市の中で、コンベンションの開催の割合は、熊本の場合は大きく下がっている。福岡とか横浜とかが相当数字を上げている。この割合を、こういうところを含めた割合と思うが、熊本の実態から見ると、恐らくこの学会の 4000 人から 5,000 人が 3 件とか、3,000 人が 4 件とか、ただ、総会大会が、3,000 人規模以を 13 件と見ている、この根拠なのだが、熊本の今までの実態からすると、こんなに大きな大会はあっていない。これを作ることによって誘致するということだと思うが、この算出根拠について、少し基礎の捕らえ方がちょっと高く数字的に見ている気がする。熊本の開催の実態を見ると、1,000 人規模未満が一番多い。一昨年話で行くと、274 件のうち 231 件が 1,000 人未満。そういうことから見たときに、政令市全体の割合で出すというはちょっとどうかなと疑問を持つ。

(事 務 局) まず、他都市、政令指定都市の施設の状況を見る中で、コンベンションとイベントの比率を 4 対 6 で設けさせていただいた。それから、学会については日本国内で 6,000 件以上の学会が開催されている。その中で規模別が判明しているもの。それを細かく分けて、500 人規模から 5,000 人以上、格段かで規模ごとに分類している。その判っているものが、全体で 2,369 件出ている。その中で、大規模なもの 3 件については、他都市の学会の規模別で見ると、4,000 から 5,000 人規模が 35 件開催されている。それとか、3,000 人規模が 38 件開催されている。そういった開催状況があるので、その約 1 割が新たな施設が出来ることで誘致出来るということで試算している。併せて大会・総会についても、国が所管している法人数を基に、JCCBが発行しているデータを元に、総会の規模別の分類、それを元に試算をしているところ。まず、大規模なものは 30 年に 1 回は誘致出来るのではないかというところでの件数試算の積み上げを行っているところ。

(委 員) 下のイベントの中の展示会、イベントで 79 件とあるが、これは展示ホールでの利活用の件数を挙げられているのか。

(事 務 局) この展示、イベントの 79 件については、興南会館の実績が、年間 109 件開催されていた。それを元に規模別に目標値を設定させていただいた。

- (委 員) これは一番下の展示ホールだけの利活用だけのものか。
- (事 務 局) はい。
- (委 員) ここまでやるだろうか。ここまでニーズがあるだろうか。通常週末ではないか。金土日、集客が考えられるのは週末ではないか。
- (委 員) 展示会は、開催は 2 日、土日だが、準備の期間が前後あって、これも会場費用に換算されるので、その辺も開催の日数としては捉えてあると思う。これは年度によって、学会とかもそうだが、周期によって多い年、悪い年もある。今年のように大きな糖尿病学会とか、海作りとか、いろいろなものが今年あった。そういう年は、非常に利活用が多い。そういうことで、一概に出せないのだろうが、これは平均的な数字を出しているのではないかと思う。
- (委 員) 同じイベントの中のコンサートの数だが、38 件ほど弾いてあるが、これは上のほうを見ると、九州全域で開催されているコンサートの開催件数を元に開催可能件数を出したとなっているが、普通やはり新たな M I C E 施設をと言ったときに、今まで出来なかったやつを新たに獲得して来るということが期待されているが、もしこれがそういった算出で、九州の中で出来るものを持って来たということとなると、心配なのは、市民会館とバッティングして、市民会館との食い合いになったら、新たな施設を作ってやっていく意味が無い。この 38 件というのは現実的に市民会館とはバッティングせずに新たに持ってこれるといふ数字なのか。
- (事 務 局) この積算にあたっては、今まで福岡市で開催されて、熊本市はされていなくて、他県で開催されているものが 42 件。それから福岡市だけで開催されているものが 44 件ある。その中で、まず福岡市で開催されて他の件で開催されているもの 42 件のうち、新たな施設が出来ることによって 7 割は誘致が出来るのではないかと考えている。もう一つは福岡市だけでしか開催されていないもの、そのうちの約 2 割を開催するというを目指して行きたいというふうに思い、それを合計すると約 38 件。というものをこの施設の開催件数と見たところ。
- (委 員) 今の説明を補足すると、実際、このデータに関しては私の方から出した中で、1,500 人にキャパに減った中で、いわゆるペイしないコンサートが他県に流れていた。例えば、ユーミンとかミスチルとか。ミスチルはアリーナクラスだが。要は、福岡でサンパレスクラス。熊本市市民会館は 1,500 人なので、サンパレスは 2,300 の中で、1,500 ではペイしない。しょうがないから、長崎、大分、鹿児島どこも 2,000 人を越えているので、そちらの方に流れていたという状況。それを持ってくるということ。バッティングはし

ない。

- (委員長) 要は、新規掘り起こしは少なくとも38はあるだろうという理解で良いのか。
- (委員) イベントの展示会についてだが、79件の内訳が書いていないのでよく判らないが、2,000㎡から3,000㎡までの各種展示会とあるが、今の1階のイベント・展示ホールは1,720㎡。ということは、2,000、3,000㎡級は出来ないということになるが、この辺の見込みはどう考えているのか。
- (事務局) あくまでも2,000から3,000というものは、1階の展示ホールと併せて2階の多目的ホールを使ったものをイメージしていた。ただ、今までの興南会館の利用状況から見て、2,000㎡規模というものが8割強、2,000㎡規模が一番多かった。ということから、十分に開催可能と考えたところ。
- (委員) だいたい2,000㎡級が多いということで、1階でまとめて出来るだろうということか。
- (委員長) この経済波及効果等については、前提条件があるので、少し判りにくいところがあるかと思うが、先ほどご議論いただいたように、新たな掘り起こしということ。あるいは施設が無くなったことで出来なくなっているものをカバーしていくという前提で計算が出来ているということだった。C'案かD'案ということである。C'案が良いとなって来ているようだ。この数字自身もう少し精査する必要があるのかもしれないが、今日出されたご意見を踏まえながらも一度精査していただきたいと思う。本日の会議の結論としては、C'案をベースにさらに詰めていただくということでお願いするということがよろしいか。後は、エスカレーターの問題もでた。あるいは、2階の利用についてもいろいろ工夫がありそうだということで、その辺りも含めて詰めていただく。後は、費用対効果についてはとりあえずC'案ということでやらせていただくということになったので、数字的には詰めていただくということでお願いする。それでは、何か他に委員の皆様からあるだろうか。よろしいか。そうしたら、本日はC'案で行くということを決めていただいた。あるいは、さらに精査するということがご確認いただいたということで、本日の会議を終わりたいと思う。事務局の方から次回の連絡等をお願いする。
- (事務局) (事務連絡)

4. 閉会